

世界海洋プラスチックセンター（仮称）の整備について

- 1 佐賀県沿岸地域の現状
- 2 佐賀県内の取組
- 3 世界海洋プラスチックセンター（仮称）の整備

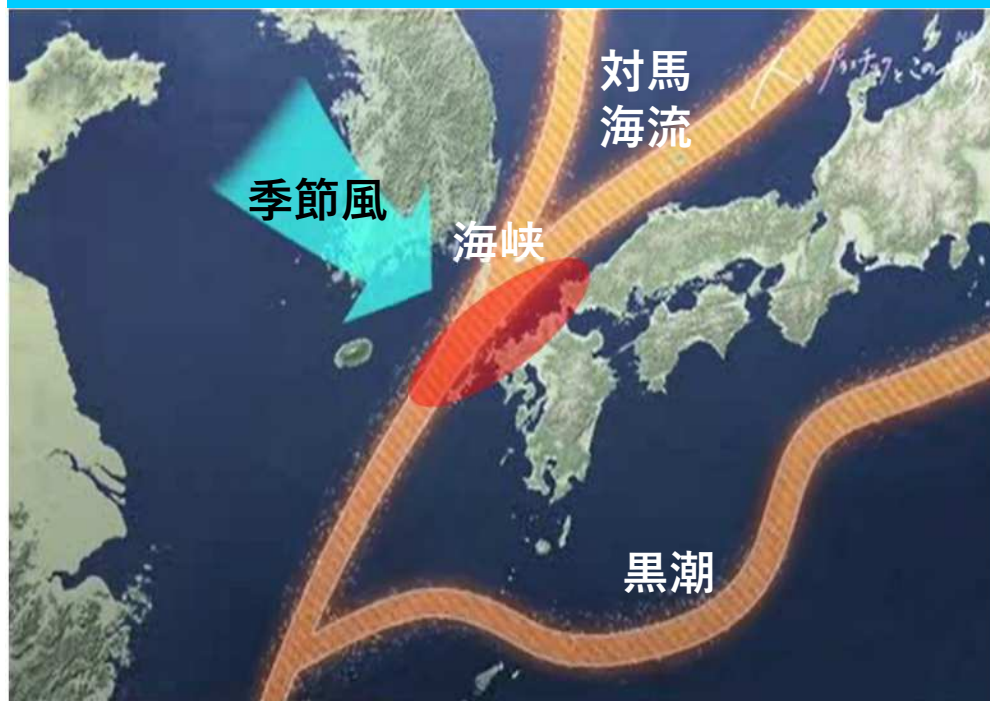
佐賀県
政策部/県民環境部 脱炭素社会推進課



佐賀県沿岸地域の現状

佐賀県唐津市・玄海町

九州北部の自然条件



- 九州北部は、海ゴミが漂着・堆積しやすい自然条件。
- 黒潮が経済発展の著しいアジア沖を通過、黒潮から分かれ対馬海流が日本海を北上して海ゴミを運ぶ。
- 冬の季節風、海峡、海岸地形により九州北部へ大量に漂着。

沿岸地域の現状

唐津市内海ゴミ漂着状況（令和4年11月）



漂着物撤去作業 実績（令和4年1月）



唐津土木事務所委託実績

佐賀県沿岸地域の現状



佐賀県沿岸地域の現状



2-① 佐賀県内の取組



ACTION 1 クリーンアップイベント



21年秋以降、今年5月までに合計6回クリーンアップを開催
のべ参加者数 1, 6 0 2人

ゴミ量の量	燃えるもの	1,720袋
	燃えないもの	127袋
	粗大プラ等	軽トラ80台



2-② 佐賀県内の取組



ACTION 2

漂着物専用回収箱 拾い箱「RE BLUE BOX」の設置



佐賀県が橋渡し、株式会社バイオテックスから唐津市へ寄付
R5.5設置

3-① 世界海洋プラスチックセンター（仮称）整備イメージ

新規

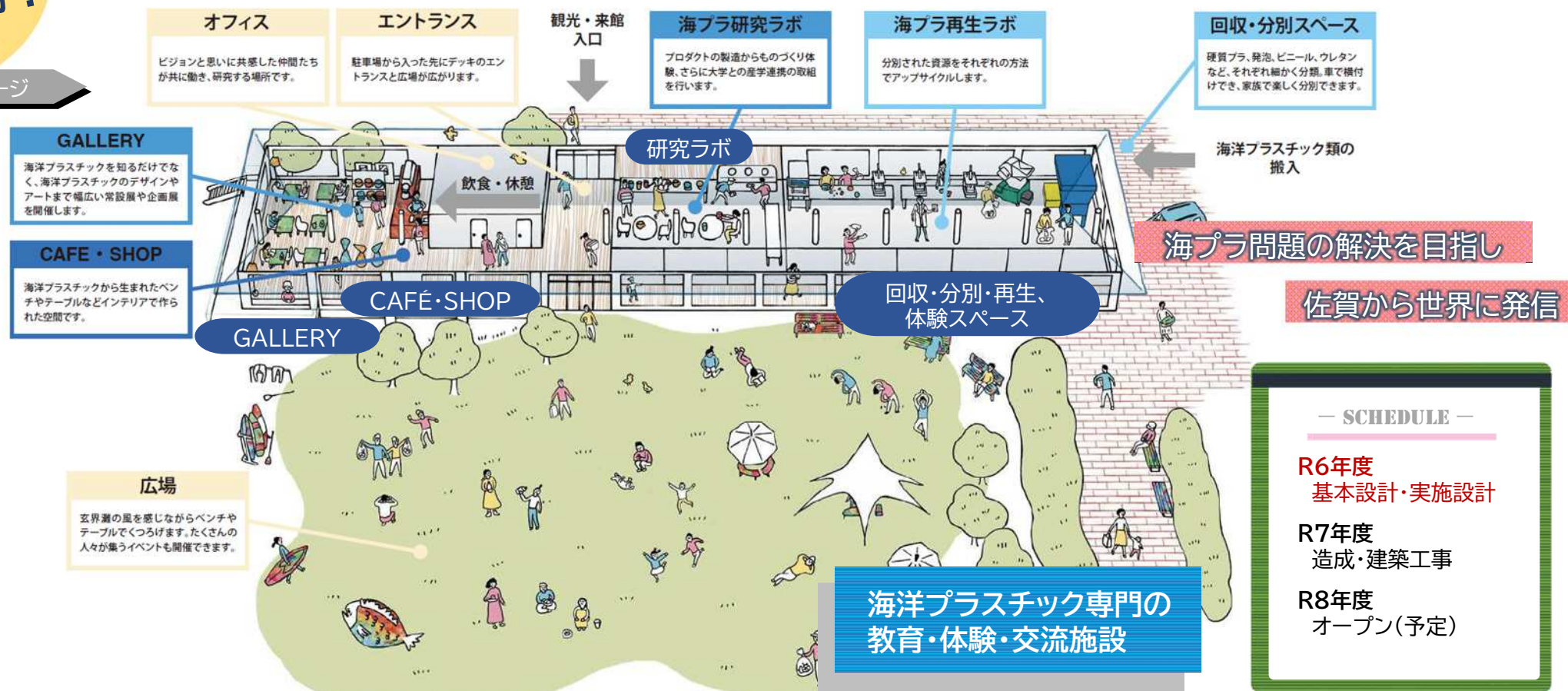
ACTION 3

海洋プラスチック問題の解決を目指して

そして今回
世界初！

イメージ

世界海洋プラスチックセンター（仮称）を整備します



3-② 世界海洋プラスチックセンター（仮称）整備イメージ

世界の海を取り戻そう、守っていこう



14海の豊かさを守ろう
12つくる責任、つかう責任
13気候変動に具体的な対策を
4質の高い教育をみんなに
11住み続けられるまちづくりを
15陸の豊かさを守ろう
17パートナーシップで目標を達成しよう

理念

佐賀県が取り組む意義

必要な機能

佐賀から、海洋プラスチック問題の解決を目指す

～世界の海を取り戻そう、守っていこう～

海洋プラスチックは世界的課題。

海洋プラスチックに関する情報発信や、佐賀の豊かな自然環境を活かしたリアルな体験提供により学びを深め、一人一人の行動変容を促すことで、海洋プラスチック問題の解決を目指す。

九州北部は、日本最大級の海洋ゴミ漂着地。漁業、観光、生態系等へ直接的・間接的影響がでている。



佐賀県では、平成29年九州北部豪雨をきっかけに、森川海はひとつという思いを人が未来へつなぐ「森川海人っプロジェクト」に取り組んできた。

私たちのくらしは世界とつながり、互いに影響を及ぼしている。世界の海を取り戻し、守っていくため、九州北部の中心に位置する佐賀から取り組む。



世界への情報発信・提言

- シンポジウム等開催
- タイ、フィンランド、韓国等へのアプローチ
- SNS等による情報発信等

教育・展示、研究

- ・ 海洋ゴミはどこからきたのか、発生メカニズム
- ・ 海プラの劣化過程、影響、マイクロプラスチック
- ・ リアルタイム海洋データ等ライブラリー等

体験

- ・ 海ゴミ拾い、海ゴミ調査、アップサイクル
- ・ サップやカヤック海ゴミ回収、スタディツアー等
- ・ 藻場再生など

海洋プラスチック回収再生

- ・ ボランティア回収(拾い箱、小中学校高校、企業等)
- ・ 漁業者回収
- ・ 再生技術を持つ民間企業との連携

物販・飲食

- ・ 新たなライフスタイルの提案

3-③ 世界海洋プラスチックセンター（仮称）整備イメージ 整備イメージ・唐津市鎮西町波戸岬周辺

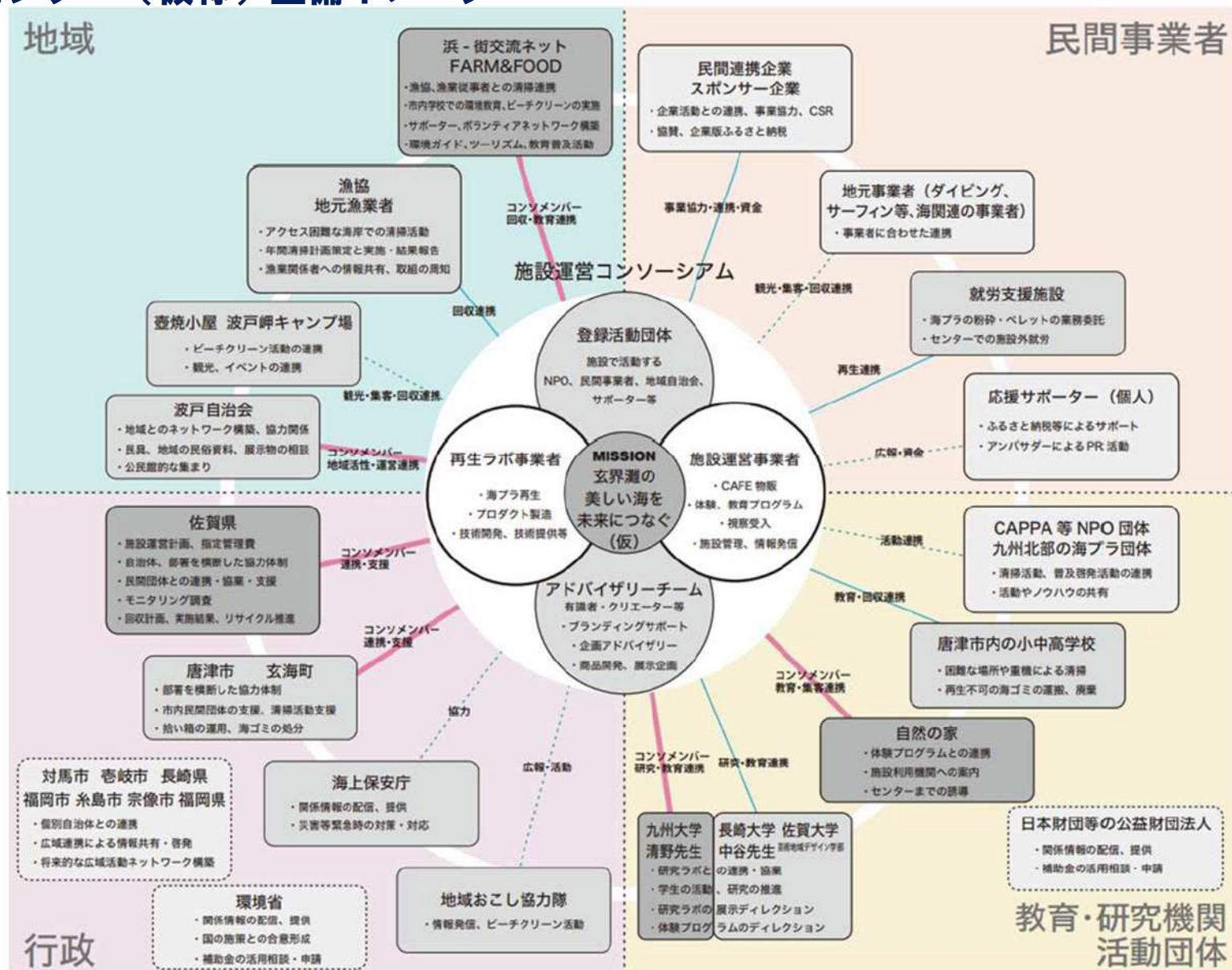


施設整備に際し、多くの方の協力を得る
海洋プラスチックを建物に「再生利用」
海洋プラスチックをプレート加工し壁などに利用



3-④ 世界海洋プラスチックセンター（仮称）整備イメージ

運営組織体制の検討 運営イメージ





海を守る
森川海の自然を
人が未来につなぐ



海洋プラスチック 国際シンポジウム



14海の豊かさを守ろう
12つくる責任、つかう責任
13気候変動に具体的な対策を
4質の高い教育をみんなに
11住み続けられるまちづくりを
15陸の豊かさを守ろう
17パートナーシップで目標を達成しよう

目的：世界初の世界海洋プラスチックセンター（仮称）を通じ、
佐賀から海洋プラスチックという世界的課題の解決を目指す

時期：令和7年2月頃 1日目：講演・パネルディスカッション、レセプション
2日目午前：フィールドワーク

場所：唐津市内

参加者：100名程度

（国内外の海プラ研究者や企業関係者、政府機関（環境省 等）、地元関係者（唐津市、中高生、NPO 等））

内容：○講演（仮題） 世界の海洋プラスチックの現状について
世界海洋プラスチックセンター（仮称）に期待すること など

○地元高校生の発表

○パネルディスカッション（仮題） 世界の海を守るために佐賀県ができること

○フィールドワーク（波戸岬の現状を視察）